

平成 23 年度

恵那市市民評価委員会提言書（案）

平成 23 年 月 日

恵那市市民評価委員会

目 次

1. はじめに	1
2. 平成 23 年度市民評価委員会の活動	2
3. 市民評価委員会による評価結果	5
(1) 放課後児童対策事業	5
(2) 特定健康診査・特定保健指導事業	5
(3) 人工透析施設運営事業	6
(4) 住宅用太陽光発電システム設置補助事業	6
(5) エコセンター恵那じん芥処理施設維持管理経費	7
(6) 未登記市道解消推進事業	7
(7) 地方バス路線の確保（地域コミュニティバス）事業	8
(8) 恵那ブランド育成事業	8
(9) 都市農村交流事業	9
(10) 農作物鳥獣被害対策事業	9
(11) 公民館の管理運営	10
(12) 行政評価制度の構築	10
4. 市民評価制度の確立に向けた提言	11
5. おわりに	14
6. 資料	15
(1) 恵那市市民評価委員会設置要綱	15
(2) 恵那市市民評価委員名簿	15
(3) 評価資料	15
(4) 評価の集約表	15

1. はじめに

近年の少子高齢化や景気の低迷など、目まぐるしく社会情勢が変化するなかで、限られた財源をより有効に活用し、市民のニーズに対応した事業を行うため、市民の意見を行政運営に取り入れる必要性が高まっています。

そこで、恵那市が取り組んでいる行政評価制度において、市民による事務事業の評価を実施するため、昨年度設置された恵那市外部評価試行委員会の提言を基に、本委員会は設置されました。

本委員会では平成 22 年度に行政が行った約 600 ある事務事業のうち、市民評価委員が自ら選定した 12 事業について、担当者からの説明と現地視察によって理解を深め、市民の視点から評価を行いました。また、評価を行うことによって明らかになった問題点について議論し、評価の手法や委員会の在り方について、提言を取りまとめました。

今後、ここに提出した提言書を行政で十分に検証した上で、可能な限り行政運営に反映し、より良い市政運営がなされるよう要望いたします。

平成 23 年 10 月 日

恵那市市民評価委員会

委員長	市川 美彦
副委員長	田口 譲
委員	大橋 由美
委員	柴 英子
委員	柘植 麻美
委員	平野 未帆
委員	宮地 政臣
委員	牧野 香
委員	三輪 哲司
委員	山田 基
オブザーバー	竹内 泰夫

2. 平成 23 年度市民評価委員会の活動

第 1 回 平成 23 年 6 月 17 日(金)

- 恵那市市民評価委員会について
- 恵那市の行政評価について
- 評価事業の選定について

第 2 回 平成 23 年 7 月 5 日(火)

- 評価事業の選定について
- 評価の方法について

第 3 回 平成 23 年 8 月 11 日(木)

- 各事業のヒアリング（前半 6 事業）
 - ・放課後児童対策事業
 - ・特定健康診査・特定保健指導事業
 - ・人工透析施設運営事業
 - ・住宅用太陽光発電システム設置補助事業
 - ・エコセンター恵那じん芥処理施設維持管理経費
 - ・未登記市道解消推進事業

第 4 回 平成 23 年 8 月 16 日(火)

- 各事業のヒアリング（後半 6 事業）
 - ・地方バス路線の確保（地域コミュニティバス）事業
 - ・恵那ブランド育成事業
 - ・都市農村交流事業
 - ・農作物鳥獣被害対策事業
 - ・公民館の管理運営
 - ・行政評価制度の構築

第 5 回 平成 23 年 8 月 31 日(水)

- 現地視察
 - ・エコセンター恵那（エコセンター恵那じん芥処理施設維持管理経費）
 - ・長島学童保育所（放課後児童対策事業）
 - ・大井学童保育所（放課後児童対策事業）
 - ・明知鉄道岩村駅（地方バス路線の確保（地域コミュニティバス）事業）
 - ・茅の宿とみだ（都市農村交流事業）
 - ・岩村診療所（人工透析施設運営事業）

第 6 回 平成 23 年 9 月 22 日(木)

- 評価結果の取りまとめ（前半 6 事業）

第7回 平成23年9月28日(水)

- 評価結果の取りまとめ（後半6事業）

第8回 平成23年10月18日(火)

- 評価結果と提言書（案）の確認
- 次年度の評価方法と委員会について

3. 市民評価委員会による評価結果

平成 22 年度に市が行った約 600 の事業のうち、12 事業について意見を求められました。本委員会の評価は以下のとおりです。

事業名	放課後児童対策事業
総合評価	B
学童保育に対するニーズは高く、市が行うべき必要性の高い事業である。また、運営は受益者が中心の市民団体となっている点は良い。 <u>しかし、長島学童保育所を視察した際、防災上の安全面や衛生面において改善が必要と見受けられた。</u> 具体的な対策として、<u>学童保育に対する明確な基準を作成し、保育環境の向上を図ること。特に、長島学童保育所は早急に移転を含めた改善を図ること。また、</u>学校施設を中心とした公共施設が利用できるように、教育委員会などと調整を図ることが必要である。さらに、未設置地区の解消や、障がい児対応など幅広いニーズに対応できるように取り組むべきである。	
今後の展開方向	
改善しながら継続 <u>(明確な基準の作成と、特に長島学童保育所の改善)</u>	

事業名	特定健康診査・特定保健指導事業
総合評価	A
病気の予防をする意義は高く、生活習慣病などの予防対策として大切な事業である。 受診率を向上させるためには、「健康は自分で守る」という意識を高めることが重要であり、<u>市民が「検診を受けなければいけない」と感じる啓発を</u>していく必要がある。<u>また、人口が集中している大井町・長島町の</u>集団検診の機会を多くするなど、場所、回数、受益者負担についても引き続き検討するべきである。	
今後の展開方向	
拡大 <u>(検診の啓発・場所・回数・受益者負担について検討)</u>	

事業名	人工透析施設運営事業
総合評価	B
十分な体制が取れないまま開始した点の問題があるが、医療から疎遠になったり、手厚い看護が必要となったりする透析患者の受け入れ窓口として機能しており、地域医療としての役割を果たしている。 しかし、<u>医療スタッフの確保ができず、ベッドが空いている状態</u>が続くことは、ランニングコストがかかり、財政的に負担になると思われるため、引き続き医師やスタッフの確保を行う必要がある。	
今後の展開方向	
改善しながら継続 <u>(医療スタッフの確保)</u>	

事業名	住宅用太陽光発電システム設置補助事業
総合評価	B
太陽光発電は再生エネルギーとして 1 つの手法であり、低炭素社会を構築していくには必要な事業である。市民の期待も大きいことから、公正を欠くことのないよう、今後も補助制度を継続するべきである。 しかし、補助金額については、近隣他市より高いため、1 人当たりの補助額を減らして広く補助を行うなど、市民のニーズに合わせた改善が必要である。さらに、市のエネルギー施策を明確にし、補助金の交付だけでなく、太陽光発電などのメリットを広く市民に知らせることや、<u>市民を巻き込んだ設置を促進するシステムを考案すること</u>により普及させる必要がある。	
今後の展開方向	
改善しながら継続 <u>(補助制度の継続、その他の普及方法の考案)</u>	

事業名	エコセンター恵那じん芥処理施設維持管理経費
総合評価	A <u>OR B</u>
公衆衛生の維持には必要不可欠な事業であるが、維持管理経費が大きい。今後、施設の老朽化が進み、維持管理費はさらに増加する。また、中間処理方法としてRDF化が適切であるかという点に関しては、RDF炭化物の利用が助燃材以外に拡大されていない。 今後はRDF炭化物の有効利用や、燃料費のコスト削減を研究するとともに、<u>現行方式とコストの比較をしながら、次のごみ処理施設の検討を早急に行う必要がある。</u>さらに、恵那市指定ごみ袋の価格の見直しや、企業広告の掲載などの手法による財源確保を図るとともに、市民にゴミの減量化について理解を求める必要がある。	
今後の展開方向	
改善しながら継続 <u>(RDF炭化物の有効利用や、燃料費のコスト削減の研究と、次期ごみ処理施設の検討)</u>	

事業名	未登記市道解消推進事業
総合評価	B
市が行うことの必要性が高い、公共性の高い事業である。例えば、訴訟が起こるなどした場合、不利益を被るのは市民であることから、必要な事業である。 地道で時間のかかる事業であるが、地籍調査事業とも連携して、全体事業のスピードアップを図り、引き続き進めていくこと。	
今後の展開方向	
従来どおりに継続 <u>(全体事業のスピードアップを図る)</u>	

事業名	地方バス路線の確保（地域コミュニティバス）事業
総合評価	B
バスなどの公共交通機関は、高齢者・学生など交通弱者には不可欠である。しかし、不特定の人を対象としているため、利用者が少なく、効率が悪い。 今後は、交通弱者の交通手段確保を図るものの、バスの小型化や1日数人の利用にはタクシー利用など、効率的な輸送方法を考慮すべきである。また、明知鉄道とバスダイヤの改善、<u>路線と運行の見直し、接客態度の改善などにより、</u>さらなる利便性の向上に努める必要がある。さらに、利用する地域住民の意見を調査し、オンデマンドバスシステムの導入など、利用者のニーズに合わせて事業を展開すること。	
今後の展開方向	
<u>改善しながら継続（効率的な輸送方法の考案、路線と運行の見直しなどによる利便性の向上）</u>	

事業名	恵那ブランド育成事業
総合評価	B
恵那市のブランドを外部の方に知っていただくのに必要な事業であり、産業の振興を考える上では市が関与する必要がある。 現在は、事業者や商工業団体や観光協会を通して育成を図ろうとしているが、<u>地域協議会などで、</u>ブランドの育成によって、地域の活性化などのメリットがあることを、市民に伝える努力をするべきである。また、<u>栗園の土地の確保や生産者のリーダーを育成することにより、</u>栗の増産を図ることや、栗や寒天以外のブランドの育成、広域での開発も考慮する必要がある。	
今後の展開方向	
<u>改善しながら継続（市民へのPR、栗の増産、広域でのブランド開発）</u>	

事業名	都市農村交流事業
総合評価	<u>A OR</u> B
農業（農村）を通して市の活性化につながる事業であり、市にとって明るい将来性のある事業である。 今後は、空き家対策と合わせて、「茅の宿とみだ」のような宿泊施設を増加させるとともに、周辺の観光ルートの一部に宿泊施設や食事施設として組み込み、恵那市の収益につながるように展開していくこと。<u>さらに、市民との協働により、宿泊や農業体験の受け入れ態勢を整え、情報を発信していくことにより、農業交流人口を増加させること。</u>	
今後の展開方向	
拡大（ <u>宿泊や農業体験の受け入れ態勢を整え、情報を発信する</u> ）	

事業名	農作物鳥獣被害対策事業
総合評価	<u>A OR</u> B
農業従事者としては大きな問題であり、市が行うことの必要性が高い事業である。また、鳥獣被害の現状などをデータとしてきちんと整理したうえで対策を講じており、新たな方法にも試験的に取り組むなど、堅実に事業を進めている。 防除は受益者負担が原則だが、収益性から見て、助成が必要であり、絶えず国や県にも訴えかけていくべき。また、動物は自由に動き回るので、関係機関と連携して被害対策の支援を行うべきである。<u>さらに、森林の育成についても、広域的に協議を行い、有害鳥獣が山里へ出没しないような環境をつくる努力が必要である。</u>	
今後の展開方向	
拡大（ <u>助成の継続と森林の育成</u> ）	

事業名	公民館の管理運営
総合評価	A <u>OR B</u>
市民が積極的に参加する生涯教育の拠点として、コミュニティセンターが重要な役割を果たしている。 今後は市民の期待に応えるため、市民講座の充実、適切な運営によるコストの削減とサービスの向上を図ること。また、<u>まちづくりの拠点として地域協議会など</u>への管理委託を検討して、<u>コストを削減させるとともに、地域間の競争によりレベルアップを図り、利用を促進させるなどの</u>取り組みも期待する。	
今後の展開方向	
<u>改善しながら継続（地域協議会などへの管理委託によるコスト削減と利用促進）</u>	

事業名	行政評価制度の構築
総合評価	B
適正な行政経営、健全な財政運営を行っていくために評価は必要であるが、評価方法などが市民には難しい。また、公表されている事務事業成果表についても、市民には伝わりにくい。 今後は、事務事業成果表、評価委員チェックシートの改善を行い、市民から見て分かりやすい制度を目指すこと。<u>さらに、ウェブサイトへの掲載の仕方も、検索できるようにするなど、見やすくする工夫が必要である。</u>	
今後の展開方向	
<u>改善しながら継続（市民に分かりやすい様式・公表方法への改善）</u>	

※総合評価は事業の正当性について、公共性・有効性・効率性・公平性の4つの視点から、A・B・Cの三段階（A：極めて高い、B：高い、C：やや低い・低い）で示しています。

4. 市民評価制度の確立に向けた提言

参考〔外部評価試行委員会の提言内容〕

評価を行うことによって、明らかになった問題点について議論し、評価の手法や委員会の在り方についての意見をまとめました。

(1) 評価対象事業について

①選定の仕方

- ・今年度は内部組織である行政評価委員会により、行政・市民の立場から必要性の高低を勘案して、計 4 事業を選定しました。今後は「事務事業成果表」をもとに、委員によって評価対象事業を選定するのが望ましいと考えます。

②年間評価事業数

- ・評価事業数は総合計画の 31 施策ごとに 1 から 2 事業選定し、合計 45 事業程度が適当と考えます。しかし、今後委員が評価対象事業を選定することになれば、さらに多くの会議が必要になります。評価事業数は、委員を数グループに分けてヒアリングを行うなどの対策を取りながら、少しずつ増加させていくのが望ましいと考えます。

(2) 各課ヒアリングについて

①説明資料

- ・基本的には今年度と同様の資料で評価できると思います（事務事業成果表、総合計画管理チェックシート、担当課が必要に応じて用意する資料）。ただし、事務事業成果表の中の事業費と財源の内訳、また初期投資の伴う事業については、現時点での未償却残高を示してください。

②説明の仕方

- ・ヒアリングの時間が限られているので、事前に質問を提出し、当日までに回答してください。
- ・事業によっては担当者が説明するだけでなく、より現場に近い方の意見を聞けるようにしてください。

③現地調査の必要性について

- ・ 初期投資の伴う事業など、必要に応じて現地を見せてください。

(3) 評価シートの記入について

①評価の4視点について

- ・ 数値で示されている視点は、その数値がどのような要素で成り立つか、また基準となる数値を把握することが重要と考えます。担当課は数値を把握するための必要な資料を提示していただく必要があります。
- ・ 数値で示すことができない視点は、担当者と一緒になって考えることで、判断することができると考えます。担当者は事業の概要だけでなく、事業に対する思いなども説明するようにしてください。
- ・ 各委員の価値判断は立場や能力によって大きく異なるため、事業の目的を客観的に理解し、多面的な視点から評価を行うことが重要と考えます。

②評価シートの様式・使い勝手

- ・ 基本的には今年度の様式で評価できると思います。ただし、評価シートのそれぞれのチェック項目に、その時点での自分の考えを検証するため、評価の根拠を記入できるようにしてください。また、市民から見て分かりにくい項目があったので、必要であれば外部評価委員によってチェック項目を変更するのが望ましいと考えます。

③評価の取りまとめ方法について

- ・ 今年度は担当課からのヒアリングの後に、事務局が各委員の評価シートを回収し、評価を集約した後、委員会で集約内容について議論しました。今後もこの方法が的確であると考えます。

(4) 評価結果の進行管理について

①評価結果、提案や意見の進行管理

- ・ 担当課は今後の具体的な対策と、評価結果を予算にどのように反映させたのかを、委員会に報告するようにしてください。

②評価の過程や結果の公表の仕方

- ・ 評価の過程、結果、及び進行管理についてはホームページなどに掲載し、広く市民に公表してください。ホームページに掲載するに当たっては、すでに公表している「事務事業成果表」「総合計画管理チェックシート」とリンクさせてください。

(5) 今後の委員会の在り方について

①委員の人数

- ・委員の人数は、7 から 10 人程度が各委員の意見を取り上げることができ、集中した議論ができると考えます。

②委員会の回数

- ・委員会の回数は月に 2 回程度、年に 8 回程度の開催が適当と考えますが、評価事業の数や内容によって調整する必要があります。

③委員会の開催時期

- ・行政の出納閉鎖後に委員会を立ち上げ、次年度の予算編成に間に合うように評価するのが的確であると考えます。具体的には6月から10月の間に委員会を開催してください。

④委員の選定について

- ・委員には専門的な知識のある各部門の精通者や企業経営者を選定すると、幅広い意見を聞くことができると考えます。また、公募や男女のバランスを考慮して選定することにより、市民の意見を反映した委員会になると考えます。

(6) その他意見

- ・今回の試行から、類似事業、補完事業、代替事業との関連で、相対的に事業を評価することの重要性が明らかになりました。例えば、上矢作歯科診療所運営経費の場合は全市的な公的医療機関、合併浄化槽補助事業の場合は公共下水道などの他の水洗化事業や上水道事業、恵那市女性防火クラブ育成事業の場合は消防団や自主防災隊、ユビキタス管理運営事業の場合はCATV事業との比較が重要となります。そこで、当面は事務事業を評価対象としますが、いずれは施策レベルでの評価を行うべきと考えます。
- ・今後、市民の意見を二分するような事業を評価する場合があります。その際、評価事業の利害関係者から委員に何らかの働きかけがある可能性が想定されます。その場合は、事務局が利害関係者の窓口となり、その対応の仕方について委員長を通して委員会で諮るようにしてください。

5. おわりに

本委員会は外部評価試行委員会の提言に基づき、6月から10月までの限られた時間の中で、与えられた任務を果たすべく精力的に活動し、上記のような提言をまとめました。

〔感想を挿入いたします〕

この提言書は市が行った事務事業と市民評価制度について、市民からの視点で客観的に意見を述べたものです。今後、市民評価制度を継続していくには、市職員の行政評価に対する意識改革と、積極的な取り組みが必要と考えます。本委員会の提言内容に即して市民の期待に応え、最終的に市民の満足度を高められるよう要望いたします。

資 料

■ 恵那市市民評価委員会設置要綱

■ 恵那市市民評価委員会委員名簿

■ 評価資料

■ 評価の集約表